

長崎県対馬市上対馬地域 P R 資料

【地区の概要】

- 上対馬地区は、対馬島の北部に位置し、地区の拠点である比田勝地区には韓国との航路を持つ国際港を有する。対象とする漁港等は、その比田勝港および、泉、鰐ノ浦、豊、大浦、富ヶ浦、唐舟志、浜久須の各漁港である。



【豊かな水産資源】

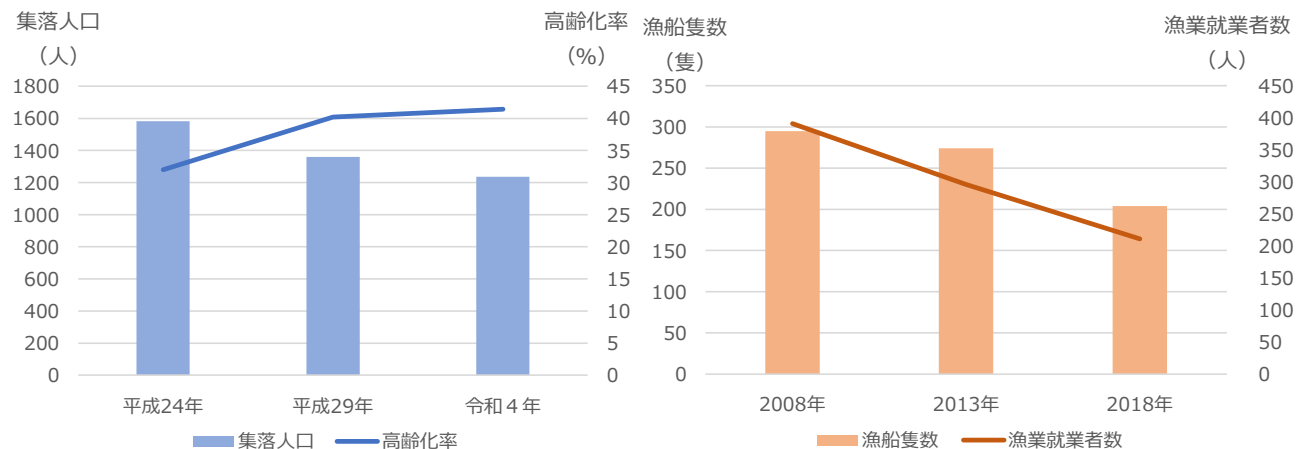
- 上対馬は、対馬の最北端に位置し、漁場に恵まれ、管内は3t～10tを主力とする一本釣り、曳縄、延縄漁業の他に、定置網漁業、中型旋網漁業、船外機による採貝藻漁業が以前より行われ、アマダイ、タチウオ、アジ、サバ、ブリ、ヒラス、サザエ、サワラ、タイ等の高級魚が漁獲の上位を占めている。

【観光客増加の可能性】

- 韓国からの玄関口である比田勝港は国際交流の拠点の役割を担い、比田勝港と釜山港（韓国）間の国際航路は、平成30年度31万人の入国者があり観光業の大きな受け皿となっていた。しかし、令和元年7月頃から日韓関係が悪化し入国者は激減。令和2年3月以降は、コロナ禍の影響を受け国際航路は全便運休、入国者は皆無となり、観光業に深刻な打撃を与えたが、現在国際航路が再開し、韓国からの来島が回復傾向にあり、ウィズコロナ時代を迎え、観光産業回復の好機となっている。

【漁業従事者の高齢化・後継者不足】

- 組合員数は、平成元年に豊崎、鰐浦、西泊湾漁協の3漁協が合併し正組合員 487 名、准組合員 627 名、計 1,114 名であったが、組合員の高齢化、後継者不足により令和4年には、正組合員 173 名、准組合員 276 名、計 449 名まで減少。



【持続可能な対馬の水産業が課題】

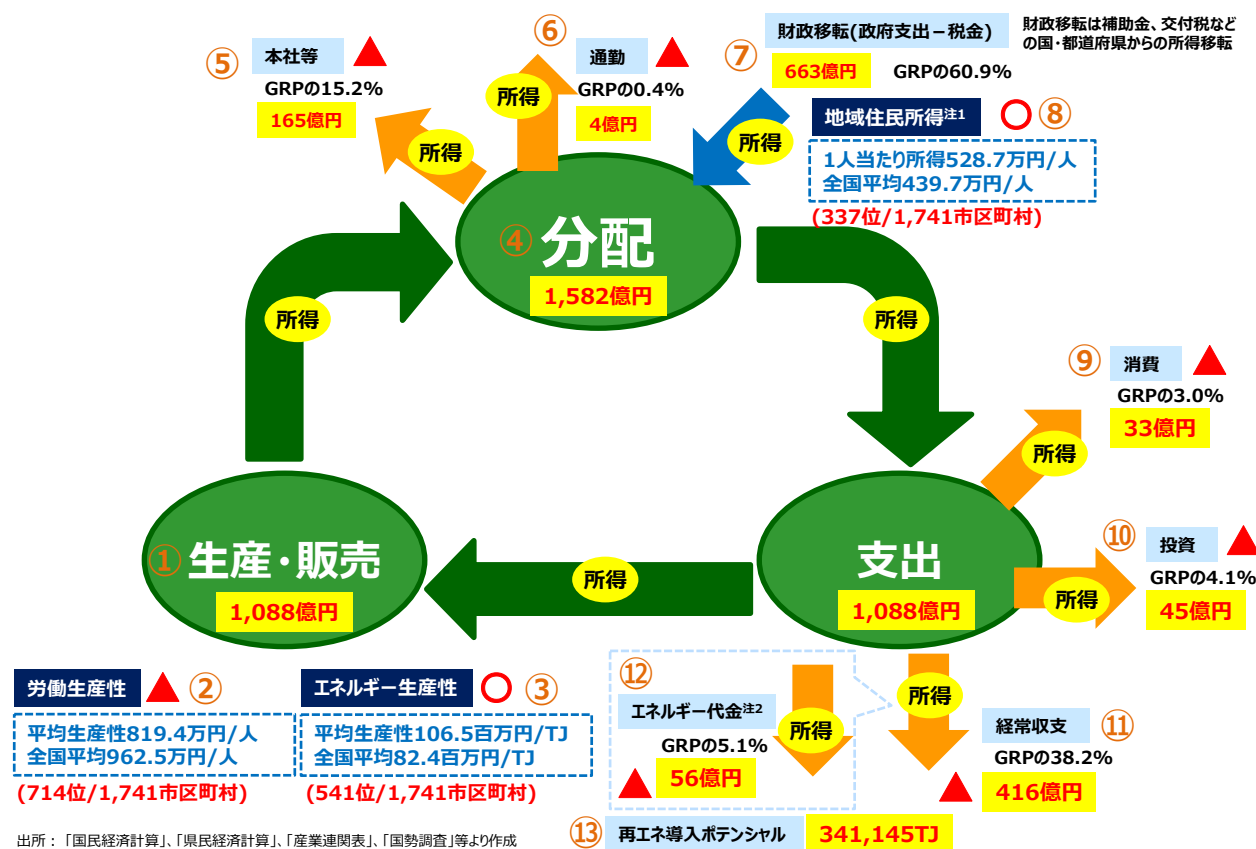
- 水揚額は、平成元年の合併以降20 億円水準の水揚げを維持していたが、近年は漁獲量減少により、水揚額も右肩下がりとなっている。このような状況では漁業者はもとより、組合の運営が危ぶまれる。また、燃油の高騰、魚価の低迷、資源の減少、後継者不足等のマイナス要因が長期化し、漁業者の出漁意欲が薄れ、浜の活力も低下している。

対馬市 上対馬地区の概要

【地域経済】

- 生産・販売は、全体で1,088億円の収入があり、そのうち労働生産性、エネルギー生産性ともに全国平均より高い数値となっている。
- 分配は、全体で1,582億円の収入があり、そのうち通勤で33億円、財政移転が663億円の収入がある。また、本社等が対馬市でない企業への支出が165億円あり、対馬市の地域住民所得は1人あたり528.7万円と全国平均より高い結果となっている。
- 支出は、全体で1,088億円であり、そのうち対馬市内での消費は33億円の収入がある一方で、投資、経常収支、エネルギー代金は対馬市以外に多くの支出が発生し

地域の所得循環構造

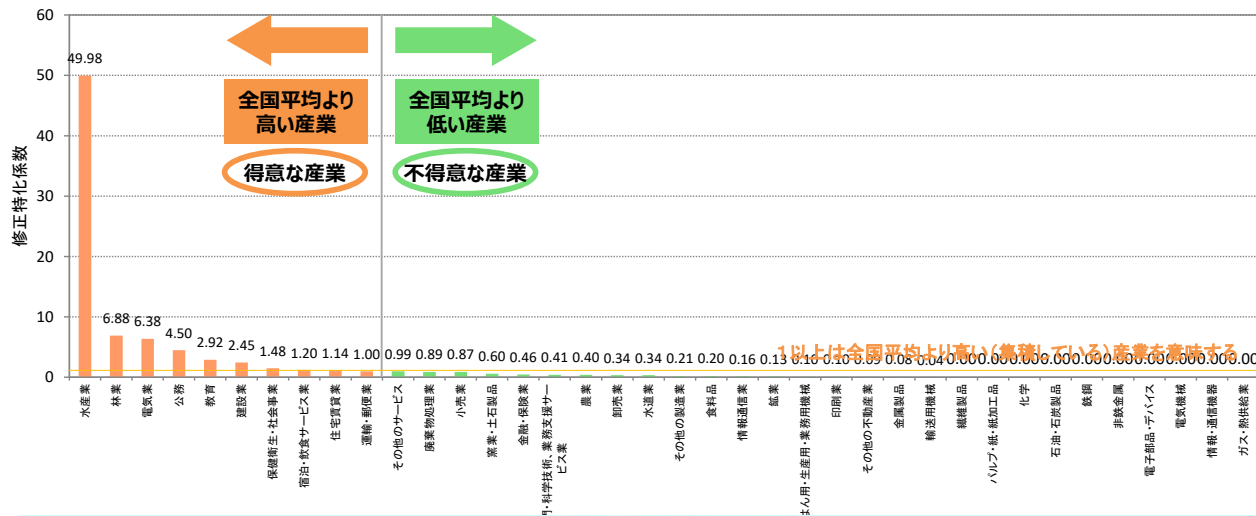


対馬市 上対馬地区の概要

【地域経済】

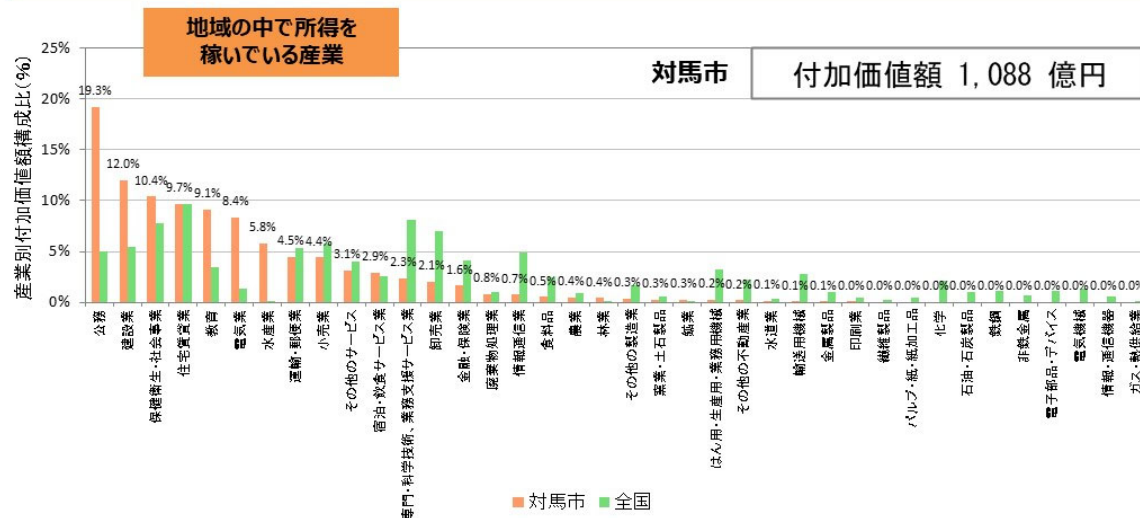
- 対馬市は、水産業が突出するほか、林業、電気業、公務、教育、建設業に比較的優位性があり、付加価値額構成比は、公務、建設業、保健衛生・社会事業、住宅賃貸業が上位である。

産業別修正特化係数（生産額ベース）



- 生産額ベースでの産業別修正特化係数で見ると、対馬市の水産業は市内産業の中で最も高い。

産業別付加価値額構成比

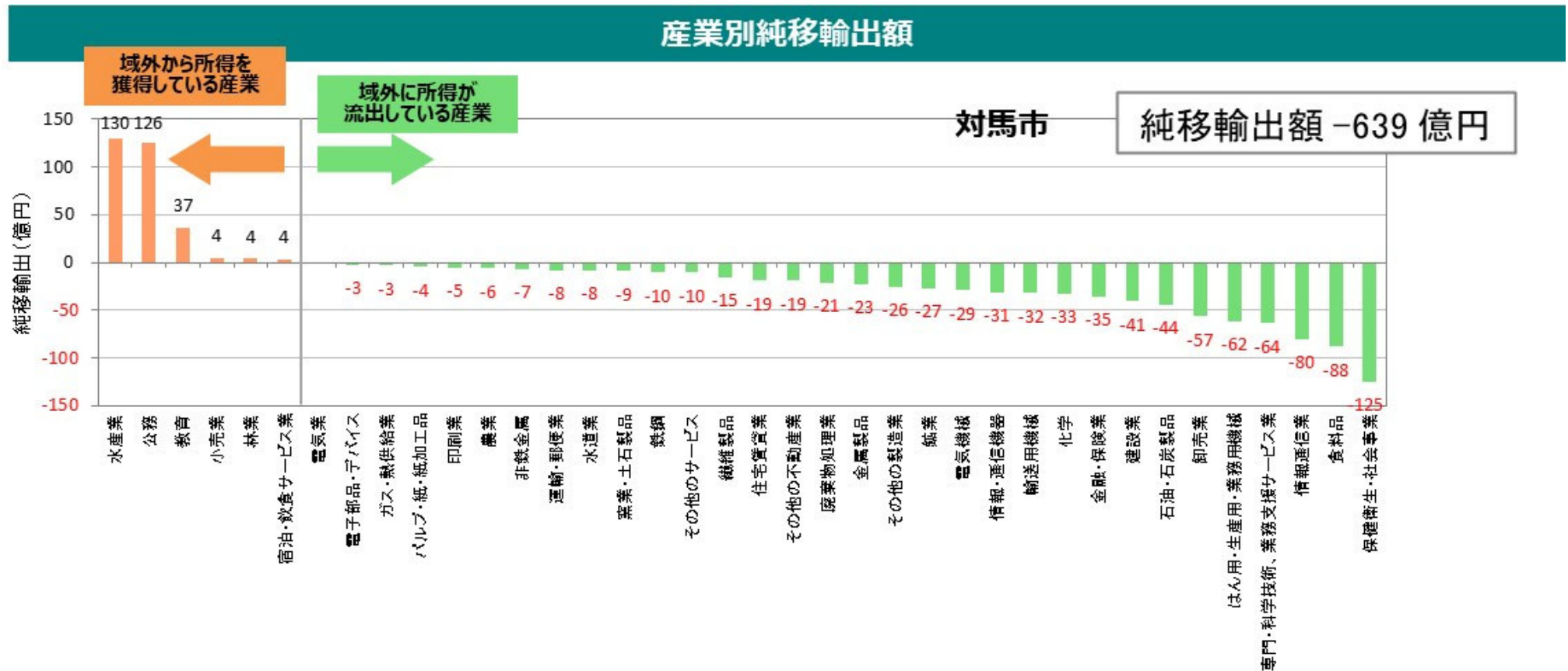


- 産業別付加価値額構成比では、水産業が5.8%である。

対馬市 上対馬地区の概要

【地域経済】

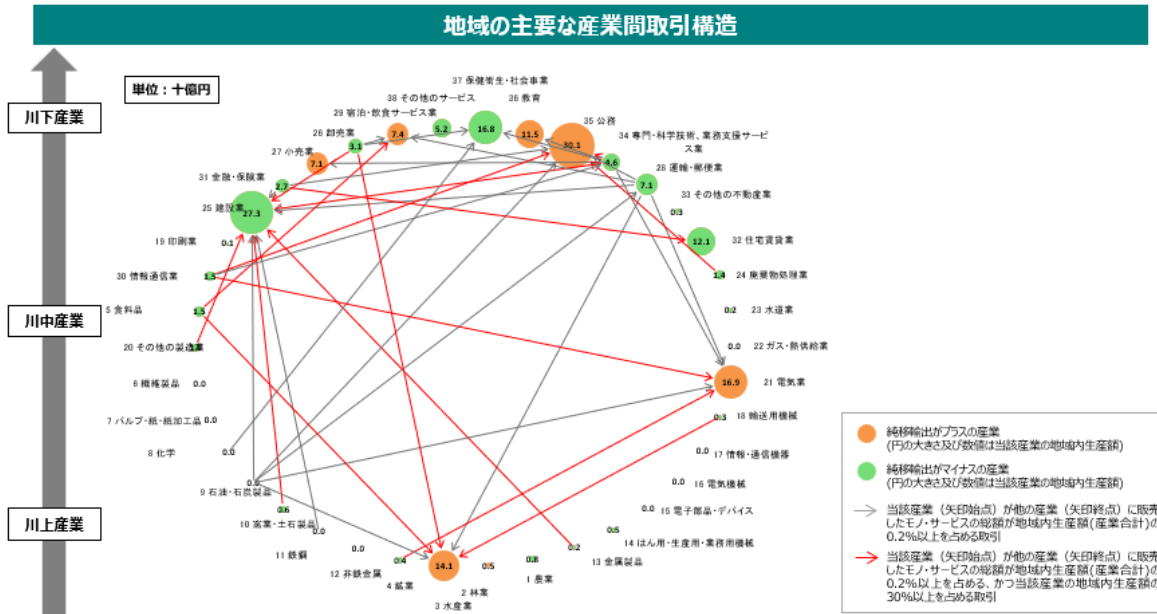
- 域域外から所得を獲得している産業は水産業と公務が筆頭、次いで教育、小売業、林業、宿泊・飲食サービス業である。これらは、域内での生産額が大きい産業であり、地域で強みのある産業といえる。



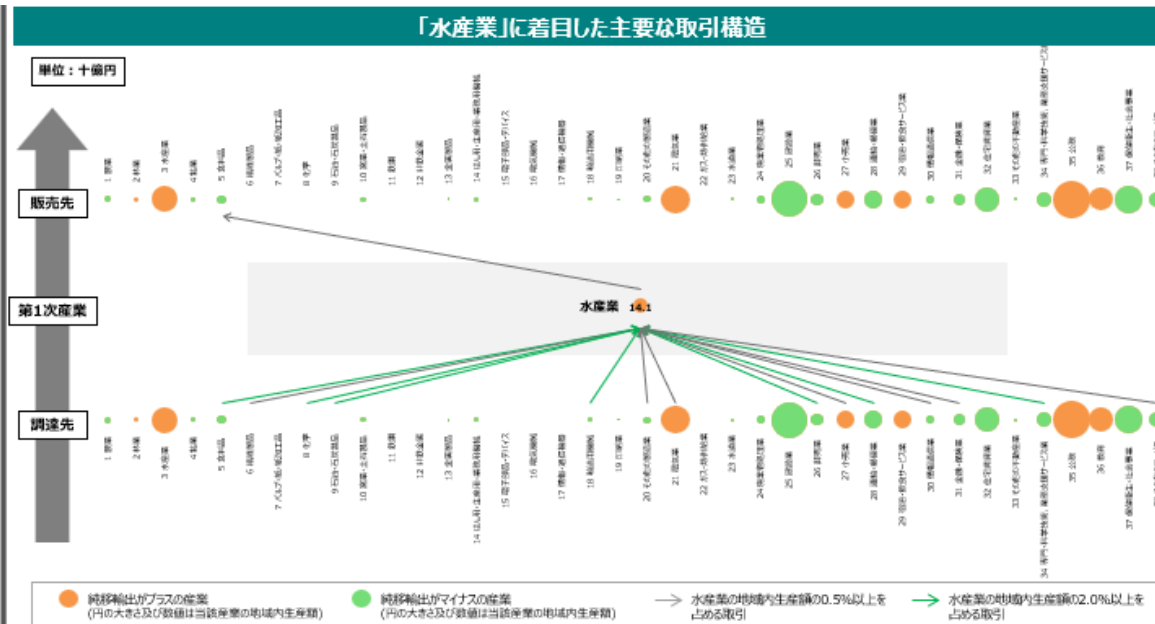
対馬市 上対馬地区の概要

【地域経済】

- 対馬市の水産業は生産額14.1億円、純移輸出がプラスとなっており、地域内の需要を域内の生産で賄うことができている。



- 対馬市の水産業の場合、食料品と卸売業、輸送用機械から調達を行っており、特に食料品産業との取引が地域の経済規模に占める割合が大きい。
- 対馬市の水産業は電気業、小売業、宿泊・飲食サービス業、公務、教育等からの調達が多く、水産業への販売が多く、それらの産業の純移輸出はプラスとなっている。



海業の事業計画骨子（案）【長崎県対馬市 上対馬地区】

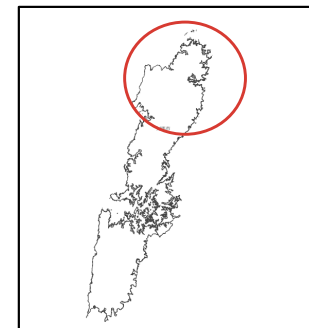
現状と課題

【地域・水産業の現状と課題】

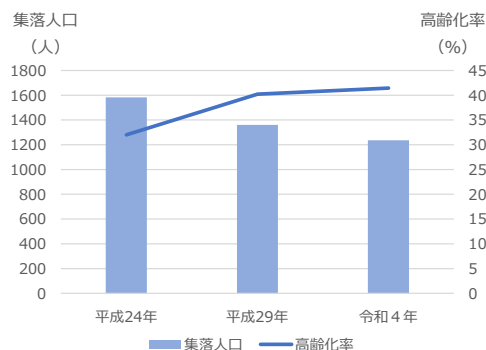
- 韓国からの玄関口である比田勝港は国際交流の拠点の役割を担う。
- 比田勝港と釜山港（韓国）間の国際航路は、平成30年度31万人の入国者があり観光業の大きな受け皿となっていた。
- しかし、令和元年7月頃から日韓関係が悪化し入国者は激減。令和2年3月以降は、コロナ禍の影響を受け国際航路は全便運休、入国者は皆無となり、観光業に深刻な打撃を与えた。

【海業の現状と課題】

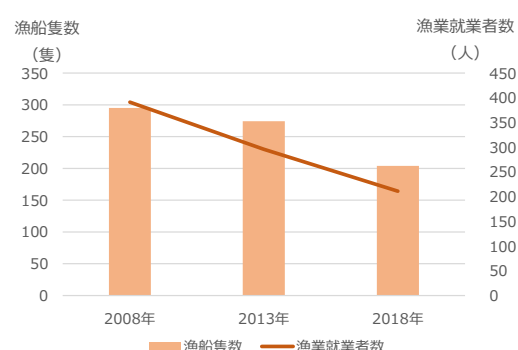
- 魚の漁獲と島外出荷の本来漁業だけでは限界があるが、海そのものの価値や漁村の魅力等を活用することで、漁業者の所得向上、雇用機会の創出等が期待できる。
- 比田勝港と釜山港間の国際航路は令和5年2月に運航再開したことも追い風となり、インバウンドを対象とした観光業の回復も期待できる。
- 上対馬町漁協管内の街と漁村の存続をかけ、漁業者と観光事業者が連携・融合して海業の振興を行い、地域経済の浮揚と賑わいの創出や水産業の高付加価値化と持続可能な漁業を実現することが望まれている。



■漁港背後集落の人口と高齢化率

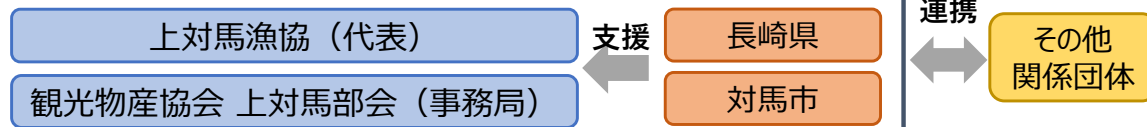


■漁港背後集落の漁船隻数と漁業就業者数



検討体制

協議会



海業の事業計画骨子（案）【長崎県対馬市 上対馬地区】

3. 海業の方針

令和5年度調査当時の内容です。

国内外からの観光客（特に富裕層）等が多く来島し、上対馬の水産資源や文化を売りにした高価格帯のサービスが成り立ち、自然や水産資源を回復させながら、地域経済回る仕組みを確立する。その結果、街や漁村に活気を生み、活躍する若い漁師や住民を増やす。漁村のホンモノ・旬を漁師が提供するアドベンチャーツーリズムの推進により、上対馬ブランドの確立と質の高い客層からの外貨獲得により上対馬地域の活性化を目指す。

【取組】

- 「遊ぶ」：漁業者やガイドによるマリンレジャー
- 「食べる」：ブランド戦略・地産地消の仕組みづくりや漁家体験推進
- 「交わる」：観光窓口拠点の強化と人材育成、お金が落ちる仕組みづくり

4. 海業の具体的な取組・実施主体（案）・期待される効果

①地曳網体験、海の家、魚礁の設置、ダイビング事業の実施（三宇田浜）

朝ビーチでの地曳網＋魚捌き＋朝食の体験
ビーチ来訪者への飲食・休憩サービスの提供
魚礁に集まる魚を目当てにダイビング実施

【期待される効果】

- 域内での水産物消費拡大
- 漁業所得の向上
- 滞在時間・質の向上
- 賑わいの創出
- 地域の雇用の創出

②古民家の活用（富ヶ浦）

漁村集落の真ん中に滞在できる古民家宿泊、飲食、体験施設としての活用。

【期待される効果】

- 域内での水産物消費拡大
- 漁業所得の向上
- 滞在時間・質の向上
- 賑わいの創出
- 地域の雇用の創出

③魚捌き人材の確保（エリア全体）

島外からの来訪者を、島での副業者として受け入れ。魚捌きを漁業者や地元の方から教わり技術習得、バイト収入を得る。

【期待される効果】

- 都市部IT企業等との継続的な関係構築
- 地域の雇用の創出
- 関係人口、交流人口の創出

海業の取組 エリア配置案

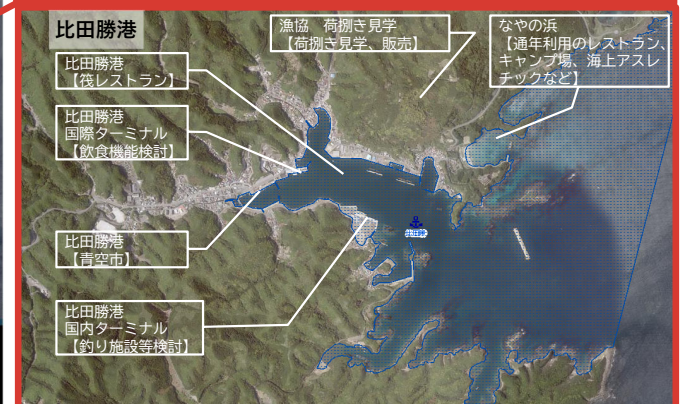


④筏レストラン、青空市、水揚げ見学、なやの浜の活用、釣り施設、魚捌き人材の確保（比田勝、浜久須）

- 筏レストランでの食事提供
- 青空市での鮮魚販売（未利用の駐車場活用、イートインでの魚食）
- 漁業者の水揚げ見学、その後の鮮魚販売
- なやの浜での通常営業のレストラン、キャンプ場、会場アスレチックの設置
- 未利用の用地を活用した釣り施設（栈橋）の設置、集金の仕組み導入
- 魚捌き人材の確保（副業人材として受入）

【期待される効果】

- 域内での水産物消費拡大
- 水域の活用
- 漁業所得の向上
- 滞在時間・質の向上
- 賑わいの創出
- 地域の雇用の創出
- 早朝時間、出航待ち時間の活用



①対馬産鮮魚の地産地消の推進とサブスクサービスの提供

比田勝港

【リーダー】
漁業者・飲食事業者

【事業の概要・実施場所】

上対馬の魚は、アナゴ、アマダイ、タチウオ、アジ、サバ、ブリ、ヒラス、サワラ、タイ等の高級魚であり、上対馬地域を訪れた観光客が美味しい鮮魚を食べられるように、漁協・定置網直送の飲食店への卸売りサービスを進める。また、定期的に島内外の顧客に届くサービス（サブスク）を導入して、漁師から鮮魚やフィーレの直送・直送の仕組みを構築し、鮮魚の高付加価値化と漁師の売上向上を図る。



【事業主体・運営体制】

漁業者・飲食事業者を中心に事業を組み立てておき、顧客が増えていけば、季節ごとの旬の鮮魚をお届けするために上対馬漁協や定置網事業者、漁師と連携して体制を整えて、事業を展開する。

【実施時期】

2023年度下期事業の企画検討、協力者の確保、サービス営業開始
2024年度上期サービス開始

【商品、サービスの内容と価格】

上対馬産の鮮魚、加工品等を定期的に直販する。値段は、市場で販売する価格よりも高く設定し、その分ストーリーや高付加価値化を進める（生産者の顔や資源管理についても情報発信していく）。

【セールスポイント・販売ターゲット、見込客数、販売戦略・競合・市場などの状況や課題等】

上対馬産の高級魚を漁師が定期的にお届けすることで、安定した販路を確保でき、また漁師が自分たちで値段を設定できることで収入の増加が見込める。鮮魚を通じて対馬ファンを増やすことに貢献でき、観光の誘客の効果も見込める。

②漁村まると漁家民泊体験推進モデル事業

富ヶ浦漁港等

【リーダー】
飲食・体験事業者

【事業の概要・実施場所】

飲食・体験事業者が所有する富ヶ浦の空き家等をリノベーションしてゲストハウス（一棟貸し）を提供。それ以外にも、上対馬町の各漁村を巻き込んだ「漁村まると漁家民泊」をコンセプトに、漁師が宿泊・体験を面で提供する事業に取り組む。漁師が海の体験（釣り・漁業体験・ワカメ収穫等の食材調達等）を提供することを想定。漁師との交流や対馬の旬の魚を釣ったり、捌いたり、味わうことでリピーター・ファンを確保し、上対馬の交流人口拡大を図る。なお、漁師への民泊の推進は、対馬GBT協会による説明会や講習会・体験会等を開催することにより、実施していく。



【事業主体・運営体制】

飲食・体験事業者を中心に民泊事業を展開。対馬GBT協会の協力のもと、漁師の民泊参入を促して、受入体制を整え、体験メニューも拡充していく。

【実施時期】

2023年度 下期 事業企画検討・補助金申請
2024年度 上期 民泊説明会の実施（漁師の巻きこみ）
リノベーションの検討
2025年度 下期 事業開始、やりながらメニューを増やす

【商品、サービスの内容と価格】

民泊利用料、食材調達体験料等。可能であれば、高価格帯のサービスにしていくべく、施設（改修補助獲得）や体験の質を高くしていきたい。また、漁家民泊が増えることで、団体向けのサービス（研修や合宿、修学旅行の受入）も検討していきたい。

【セールスポイント・販売ターゲット、見込客数、販売戦略・競合・市場などの状況や課題等】

富ヶ浦等の上対馬町の各漁村は、漁港もコンパクトにまとまっている。比田勝港からのアクセスはレンタカーやトゥクトゥク等での移動を想定する。MADOの強みを生かし、日韓の観光客と一緒に体験できる国際交流の拠点としての整備・独自性も発揮していきたい。上対馬町の旬の魚を堪能できる場所・漁師の副業・収入の向上として、漁家民泊は有望である。

③釣った魚を捌いて食べられる海鮮屋台と直売所の 青空市場整備事業

比田勝港

【リーダー】
飲食・物販事業者

【事業の概要・実施場所】

上対馬振興部で管理している市の施設（農林水産振興施設）をリノベーションして、運営を民営化し、地産地消推進の拠点として整備する。当該施設では、観光客が釣った魚を捌き、その場で食べられる屋台機能、漁師が漁獲した鮮魚を自動販売機で直売する設備を完備する。また、未利用魚（アイゴ等）のすり身を用いた蒲鉾をテイクアウトして歩きながら食べられる売店も用意する。また、隣接する駐車場や飲食店との共同企画で定期的に屋台イベントを開催し、誘客を進める。



【事業主体・運営体制】

公設民営で、運営は漁協を含む民間の協議会やDMOで運営する。
売上の一部で施設の維持管理費を捻出する。

【実施時期】

2023年度 下期 活用計画の策定、市役所内での調整
2024年度 利活用実証実験（ニーズ調査）、対馬アクションプラン策定による施設位置づけ整理、整備計画、予算化
2025年度 改修着工、活用開始

【商品、サービスの内容と価格】

鮮魚販売、加工品販売（練り物・揚げ物など）、施設使用料
（屋台・BBQスペース・調理設備）。

【セールスポイント・販売ターゲット、見込客数、販売戦略・競合・市場などの状況や課題等】

比田勝の市街地の中心にあり、現在はほとんど活用されていない遊休地となっている。観光物産協会上対馬支部の役員会議でも採算にわたり活用が議論されているが、実行に至っていない。地元住民にとっても気軽に鮮魚を購入したり、飲食や交流を楽しめる場所とする。

④イカダ設置によるマリンレジャー拠点モデル整備事業

浜玖須漁港

【リーダー】
体験事業者

【事業の概要・実施場所】

浜久須漁港（浜久須・大增）にて、体験事業者が整備している拠点の機能拡大を進め、上対馬のマリンレジャーの拠点にする。既にSUP体験、レンタルボート（船外機）の提供を開始しているが、イカダ（トイレ・あずまや・休憩所として利用）の設置により提供するサービスやプランを増やす（イカダの設置は漁組と調整する必要あり）。漁師をガイドに養成して、海での体験の提供を強化する。舟志の森づくり（旧舟志小学校）事業と連携して、対馬産材で作る木造船（伝馬船・カナディアンカヌー）の乗船・釣り体験や森でのアクティビティも提供する。



【事業主体・運営体制】

体験事業者の独自の事業として既にスタートしているが、海業モデル事業を活用して、漁師や漁組の巻き込みや、イカダの設置などを円滑に進める。森との連携は地域のコーディネータが進める。地区住民や漁師を巻き込み、集落全体で海業を進められないか。

【実施時期】

2023年度 下期 事業企画検討・漁組との調整・イカダ設置

2024年度 上期 サービスメニューの拡充・漁師の巻き込み

2024年度 下期 真珠施設の活用・森づくりとの連携で誘客強化

【商品、サービスの内容と価格】

SUP体験、船外機の貸し出し、イカダ（トイレ・休憩所）の利用料、海での体験料（海の観察や藻場再生活動への参加、漂着ごみの回収体験等）。藻場再生や漂着ごみ回収の漁師ガイドによる船外機ツアーなど。将来的には、漁師・山師ガイドを確保・育成し、木造船での釣りや森でのアクティビティも提供する高価格帯のアドベンチャーツーリズムを受け入れる。

【セールスポイント・販売ターゲット、見込客数、販売戦略・競合・市場などの状況や課題等】

比田勝港からも車で10分とアクセスが良い漁村。入り組んだ内湾であり、SUP等のマリンレジャー向きのも適している。既に体験事業者が事業をスタートしており、上対馬町の海業モデルの先進事例として期待できる。漁組や漁民の理解を進め、イカダの設置などの規制緩和・ルールづくりなどを検討する好事例となりうる。近くに真珠の加工場や住宅（豪邸）があり、活用出来たら、いろいろな事業（飲食・体験等）も可能。

⑤三宇田浜/西泊海岸の管理体制の民営化（パークPFI）による商業スペースの利活用と雇用創出

比田勝港

【リーダー】
飲食・物販・宿泊事業者

【事業の概要・実施場所】

香川県三豊市の父母ヶ浜のPFI（公募設置管理制度）を参考に、三宇田浜/西泊海岸の管理運営主体を行政から民間に移管することで、ビーチやその周辺の空間（トイレやシャワー室含む）を有効活用した商業スペース（飲食含む）や移動式サウナ、マリンレジャー拠点を誘致し、観光客や市民の利用を促進し、海業のモデル（雇用創出）を実現する。ビーチでは、各種イベント（例えば、漁師祭《TSUSHIMA FISHERMANSFEST》など）を開催。



【事業主体・運営体制】

公募型で選定した民間組織（コンソーシアム等）が運営管理を担い企業が利用する。行政は海業モデル促進の目玉施策としてPFI制度導入を進める。

【実施時期】

2023年度 事業企画検討
2024年度 **利活用実証実験（ニーズ調査）、上対馬アクションプラン策定による位置づけ整理、整備計画**
2025年度～PFI導入、管理者の公募、民間運営の海の公園として活用

【商品、サービスの内容と価格】

公園使用料、駐車場代、マリンレジャー（シュノーケル、SUP等）、各種備品貸し出し、飲食、サウナ、各種イベントでの場所の
利用料冬場はトレッキング、サウナ、海ごみ回収など
海上アスレチック、キャンプサイト、海に見えるレストラン
海フェス

【セールスポイント・販売ターゲット、見込客数、販売戦略・競合・市場などの状況や課題等】

日本渚100選の三宇田浜。比田勝港からも近く、韓国人観光客も多数。現在は市が管理しており、最低限のサービスのみを無料で提供している状況（管理費は税金）。冬場の活用方法は工夫が必要。比田勝港からの公共手段の拡充も必要。近隣に温泉、宿泊施設あり（キャンプ場含む）。

⑥ 漁港・港湾における釣りの導入事業

比田勝港等

【リーダー】
体験・飲食事業者

【事業の概要・実施場所】

比田勝港を含む上対馬町漁協の管内にある漁港において、場所を限定した有料の釣り体験サービスを展開する。また、フェリーターミナルや釣具店舗、漁協等で、餌や釣り具などの貸し出しも行い、フェリーを利用する観光客を中心に待ち時間など手軽に釣りができるようにする。利用者の管理の方法や、釣りとの組み合わせでの飲食のサービス提供を合わせて検討する。

【事業主体・運営体制】

漁協を中心に本海業モデル事業の一環で検討を進める。管理運営は上対馬町漁協またはDMOで行う。釣り具レンタルは、釣具店やターミナルビル等の運営会社が担う。

【実施時期】

2024年度 上期 釣り場調査検証、運営体制検討、条例改正検討

2024年度 下期 プロトタイプ開発、条例改正

2025年度 実証実験開始、周辺環境整備（BBQ、キャンプ等整備）

【商品、サービスの内容と価格】

釣り場の整備、釣り堀の整備、レンタルサービス、釣り魚の調理サービス、輸送サービスなど。

【セールスポイント・販売ターゲット、見込客数、販売戦略等】

上対馬町の観光資源の一つである釣りを通じて、海業振興が可能となる。同時に、大切な釣り場を守り、ルールづくりや釣りができるゾーニングを設定して、資源管理も可能となる。釣り具レンタルも行うことで、フェリーターミナル周辺で待ち時間（朝到着、出発）にやることがない観光客も満足できる。韓国人の釣り問題も解消できる可能性がある。

⑦観光窓口機能の強化と(漁師)ガイド・民泊人材、確保・育成事業

【リーダー】
体験事業者・民泊事務局

【事業の概要・実施場所】

顧客ニーズに応えるために一元的な観光窓口をDMO組織内に設置する。顧客が増えるほど、調整役の役割は重要である。また、アドベンチャーツーリズムで大事なことは、「本物」を魅せることと、それを伝え、顧客ニーズに答えられるガイド人材の確保・育成であるが、現在、上対馬にはガイドが数えるほどしかなく、水産業に関して語れるガイドはほとんどいない。漁業者がガイドとして活躍できるようになれば、上対馬の魅力を伝える役割を果たし、顧客の満足度も高くなり、客単価も高くすることができる。また、ガイドと関連して、漁家民泊も増やしていく。漁師のガイド養成や民泊人材の確保、育成を進めていく事業。



【事業主体・運営体制】

対馬グリーン・ブルーツーリズム協会の協力・連携の元で、運営体制や研修メニューの提供等の人材育成事業を展開していく。

【実施時期】

2023年度 下期 事業企画検討・補助金申請

2024年度 上期 研修会の開催

2024年度 下期 漁師によるガイドツアー開始・新規民泊の開業開始

【商品、サービスの内容と価格】

漁師ガイドや民泊、各種体験の受付・斡旋サービス（手数料）、ガイド養成講座や研修の企画開催サービス

【セールスポイント・販売ターゲット、見込客数、販売戦略・競合・市場などの状況や課題等】

窓口に関わり合わせることで、当日利用できるサービス・体験が確実にわかり、サービス提供者も顧客との調整の負担などが軽減される。また、上対馬町の各漁村や漁業者・観光事業者が一体的な海業を進めることで、上対馬ブランドが生み出され、誘客にも繋がり、顧客の満足度も高くなる（リピーターも増える）。

⑧藻場再生活動の推進と参加型の環境教育ツーリズム事業

各漁港

【リーダー】
漁協

泉・豊・鰐浦・大浦・比田勝等

【事業の概要・実施場所】

上対馬町漁協が漁業者と取組んでいる藻場再生事業や漂流・漂着ごみの回収等の作業を教育コンテンツとして提供し、修学旅行や研修旅行等の受入、体験の提供を行う。受入は、各漁組単位で行い、取りまとは、中間支援組織・コーディネーター役が担う。漁業者が提供する体験（期間・人数限定の磯資源の採集等）のメニューも充実化を図り、漁師がガイド役となり、売上アップを図る。受入を進める中で、漁家民泊のニーズが増えてくる可能性があるため、民泊体験の提供で事業拡大を図る漁業者も増えていき、地域に長期滞在する観光客が増え、漁村にお金が落ちる。体験した客の中から、漁村の暮らしや漁師の仕事に憧れ、移住してくる人が増えたらなお良い。なお、藻場再生活動としては、三宇田浜での漁礁設置なども検討したい。



【事業主体・運営体制】

漁組単位での受入を想定。ただし、客の斡旋などは、上対馬の観光窓口機能を有する組織が担うことで、一元的に人の流れを管理して、顧客のニーズに応じたきめ細やかな対応・受入先とのマッチングを行う。

【実施時期】

2023年度 下期 漁業者への説明、モデル地区の選定
2024年度 上期 モデル地区での研修・体験の受入開始
2025年度 上期 他の地区への展開

【商品、サービスの内容と価格】

漁業者が提供する藻場再生活動や海ごみ回収イベントの参加料やその他の体験料。民泊利用料等。

【セールスポイント・販売ターゲット、見込客数、販売戦略・競合・市場などの状況や課題等】

上対馬町漁協が漁業者と連携して取組む藻場再生事業は先進的であり、その取組みを発信する上でも、観光客や視察者、子どもたちをターゲットにした体験の受入は有効である。教育旅行のコンテンツの充実化は上対馬地域の観光振興にもいっても鍵となる。

⑨比田勝港周辺の海業関連の商業施設（海浜アウトレットモール）の整備事業

比田勝港

【リーダー】
物販・交通事業者

【事業の概要・実施場所】

地域事業者が所有する比田勝港に隣接する大型施設をリノベーションして、海業関連の商業施設及び手軽にマリンレジャーができる施設として整備することで、遊休地の利用と港周辺の観光地としての魅力向上を図り、日本人・韓国人観光客が集う国際交流拠点としての機能を拡充する。



【事業主体・運営体制】

予算規模が大きいことが見込まれるため、複数の会社が出資して設立する中小企業法の協同組合を作り、リノベーションや管理運営を行う。利用できるスペースが多いため、テナント利用を進めていく。

【実施時期】

2023年度上期事業企画検討・下期補助金申請検討
2024年度利活用実験・リノベーション検討・設計図作成
2025年度～利用開始

【商品、サービスの内容と価格】

施設内には、喫茶スペースやコミュニティスペース、屋上のBBQスペース等の利用料、アウトレットモールをイメージ。アウトドア系雑貨店のテナント料、隣接する湾を利用したマリン・アクティビティ（海上遊具等）の利用料等。

【セールスポイント・販売ターゲット、見込客数、販売戦略・競合・市場などの状況や課題等】

比田勝の市街地からも徒歩でアクセスできる。老朽化した施設をリノベーションすることで比田勝の活性化に貢献。隣接する湾の活用により気軽にマリンアクティビティができる場を提供。比田勝に来る韓国人や日本人向けの海浜アウトレットモールを誘致するイメージ。

海業で実施する事業の内容と体制案

令和5年度調査当時の内容です。



<検討の流れ>

組織必要性の共有の上で、
その役割整理、組織の位置づけ整理



つたえたい地域の価値
についての掘り下げ
共有のためのコンセプト
ペーパーの作成



各事業の推進とあわせて、
ディスティネーション
マーケティングの推進

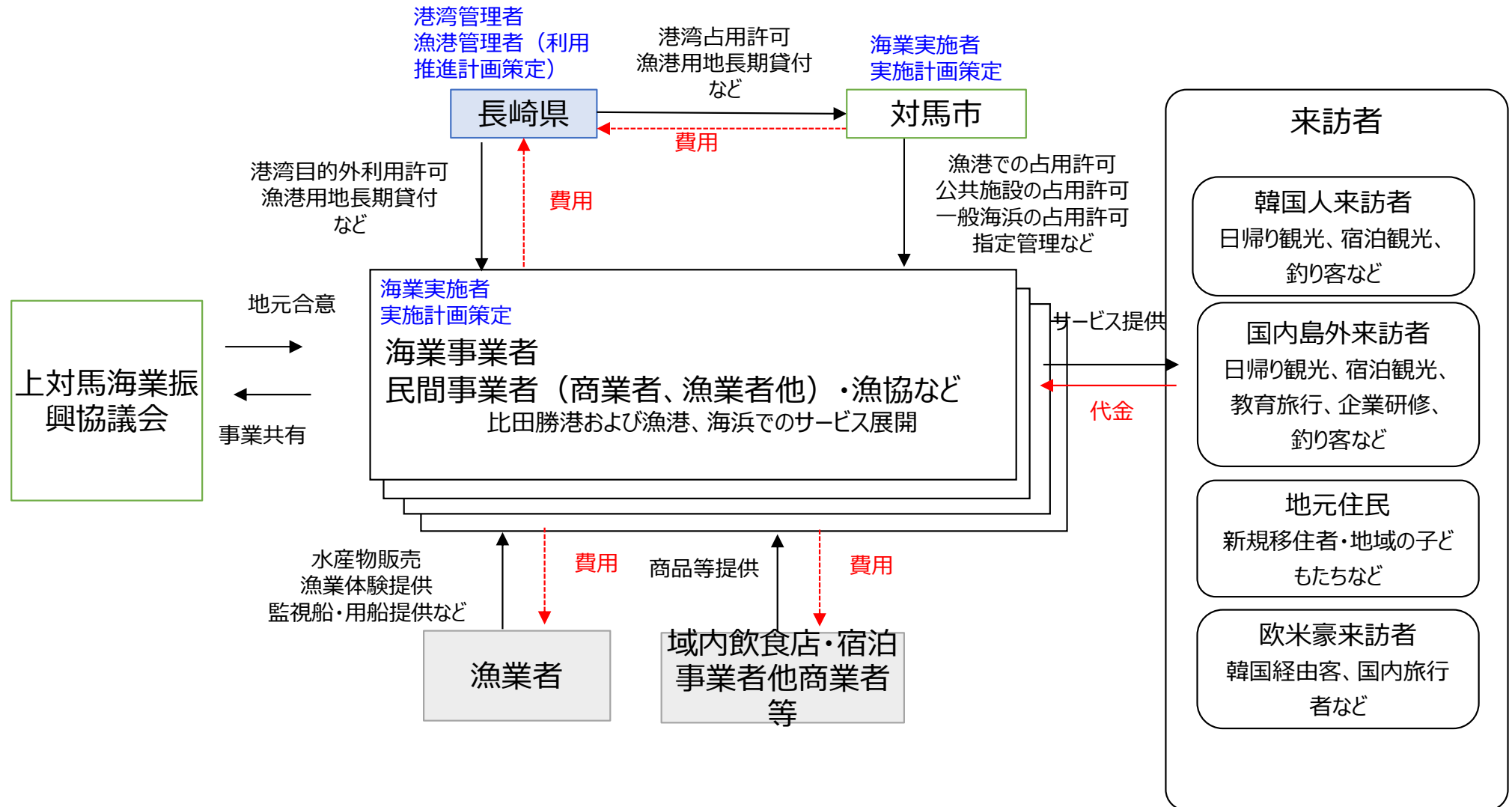


仕組みを支える制度の検討・構築

海業で実施する事業の内容と体制案

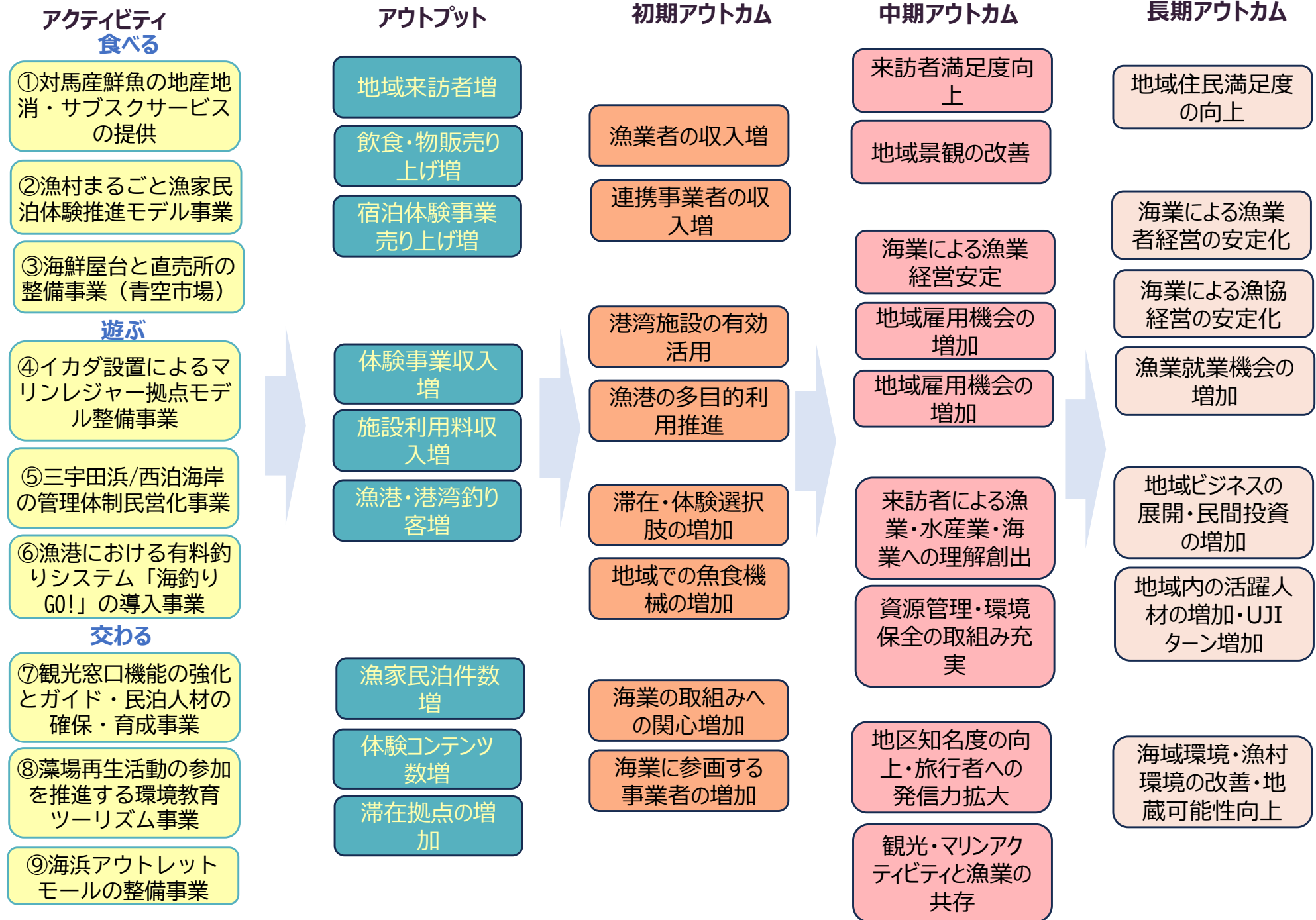
令和5年度調査当時の内容です。

関係主体間の相関



期待される効果

令和5年度調査当時の内容です。



期待される効果

令和5年度調査当時の内容です。

事業名	実現までの実施事項				実施時期										
	実施項目	概要	実施主体	活用したい支援事業	短期					中期					長期
					R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16～
「食べる」にかかる事業	①対馬産鮮魚の地産地消の推進とサブスクサービスの提供	鮮魚の飲食店直送、島内外へのサブスク配送サービス	民間事業者	－	→ 先行検討					→ 事業化・事業推進					→
	②漁村まるごと漁家民泊体験推進モデル事業	ゲストハウス、民泊及び漁業等体験事業の展開	民間事業者	－	→ 導入検討・調整・試行実施					→					→
	③釣った魚を捌いて食べられる海鮮屋台と直売所の青空市場整備事業	公共施設活用による鮮魚販売、テイクアウト商品の販売	民間事業者	－	→ 先行検討					→ 事業化・事業推進					→
「遊ぶ」にかかる事業	④イカダ設置によるマリンレジャー拠点モデル整備事業	漁港でのマリンレジャー事業	民間事業者	－	→ 導入検討・調整・試行実施					→					→
	⑤三宇田浜/西泊海岸の管理体制の民営化（パークPFI）による商業スペースの利活用と雇用創出	ビーチ及びその周辺の空間・施設の有効活用によるサービス充実	民間事業者	－	→ 導入検討・調整・試行実施					→					→
	⑥ 漁港・港湾における釣りの導入事業	釣り場の整備、サービス検討	民間事業者	－	→ 先行検討					→ 事業化・事業推進					→
「交わる」にかかる事業	⑦観光窓口機能の強化と(漁師)ガイド・民泊人材、確保・育成事業	漁業体験、漁師民泊の推進、そのためのガイド育成、研修実施	民間事業者	－	→ 導入検討・調整・試行実施					→					→
	⑧藻場再生活動の推進と参加型の環境教育ツーリズム事業	藻場再生、漂着ごみの回収等についての体験化	漁協	－	→ 導入検討・調整・試行実施					→					→
	⑨海浜アウトレットモールの整備事業	施設改修・活用によるレジャー拠点として展開	民間事業者	－	→ 導入検討・調整・試行実施					→					→